

適期田植えコシヒカリの育苗管理

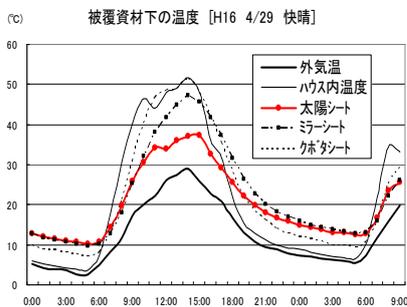
■ 温度管理やかん水に注意し、軟弱徒長苗を防ごう ■

この時期（4月下旬～5月上旬）のコシヒカリの育苗は、原則的に高温・高日射条件となるため、苗は徒長しやすく、ヤケ苗も発生しやすいため、水管理と温度管理に注意が必要です。

又、根張りを良くするため、換気を十分に行った上（苗丈の伸長を抑え）、育苗期間は20日間程度を目安としてください。「田植えまで苗が待ってくれない」ということにならないよう注意しましょう。

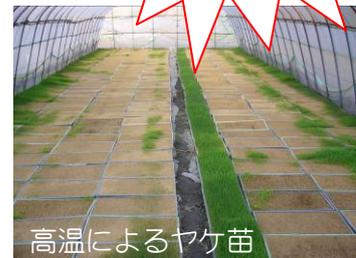


緑化期の管理（ヤケ苗防止対策）



- 出芽揃い（1 cm 程度）を確認してからハウスへ搬出。
- 搬出時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する。
- 搬出後は温度の上がる**太陽シート**で遮光したほうが望ましく、保温性の高いシートはヤケ苗の可能性が高くなります。（左図参照）
- この時期保温の必要はほとんどないが、稀に夜間最低気温が低く（5℃以下）になる場合は二重に被覆し、保温するが、低温の危険が去ったら速やかに被覆をはずす。

- 外気温、日射量があがって、ハウス内の温度が30℃を超えるような場合、**たとえ緑化中であっても換気（太陽の反対側のビニールを開放）し、ヤケ苗の発生を防止しましょう。**
- 遮光期間中、緑化するまでは、床土の乾き具合を観察し、乾いていれば、表面がぬれる程度にかん水してください。
- ハウス内が高温になると病気の発生が懸念され、軟弱徒長苗になります。緑化完了後は、すみやかに被覆資材を取り除き徒長しないようにする。
- 緑化期の昼間のハウス内温度は20℃～30℃、夜間は10℃～15℃を目安にしましょう。



硬化期の管理（草丈よりも根張り かん水はひかえめ 換気は多めに！）



硬化期以降は苗丈の伸びをなるべく抑え根量を増やすため、かん水を控えめにすることが重要です。

この時期は、朝、苗を見て葉先に露玉を持っていればかん水せず、葉先に露を持たない箱には、午前中にたっぷりと灌水する。かん水は朝1回たっぷりやり、回数をなるべく少なくするようにしましょう。

- 硬化期の日中のハウス内温度は、10時頃には40℃～50℃まで上がることが多く、軟弱徒長苗を作らないためには、換気により温度を適正に保つことが要件となります。
- 一旦、上がったハウス内の温度は下がりにくくなります。遅くとも、朝8時頃までにはハウスを開けましょう。硬化期になれば、保温をする必要はほとんどなく、**むしろハウスを全開にする**など、温度を下げることを徹底してください。（ハウスの役目は雨風をしのぐだけ）